



森ボラ 通 信

NPO法人 北海道森林ボランティア協会

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター

TEL.(fax.):(011)816-7010

E-mail:hshinrinv2002@nifty.com

■ 活動報告

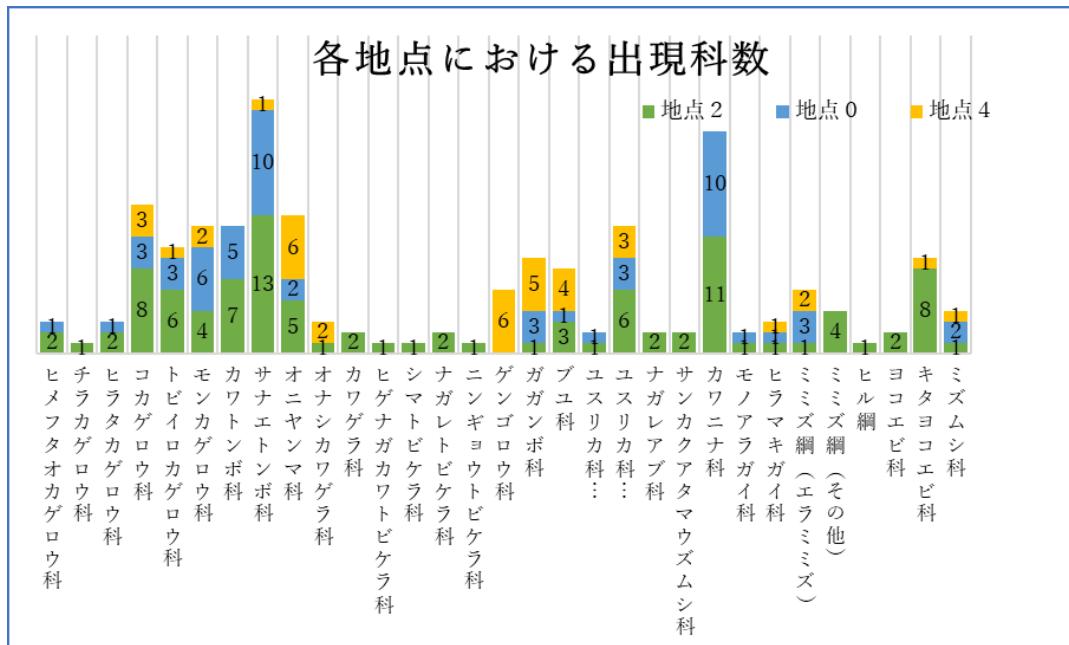
◆2025年水質調査におもうこと

異常高温とクマ騒動に揺れた2025年の澄川の森、5月7月9月の3回の調査を予定通りに無事終了できたことに安堵しています。調査を支えてくれた水質調査班メンバー、お手伝いくださった森ボラ会員の方々、ありがとうございます。そして、水生生物の同定をしてくださいり、素人集団の私たちに惜しみなく知識と助言を与えてくださった(株)建設環境研究所の酒巻さんに深く感謝いたします。

さて、今年の澄川の森は、夏以降セミの声を聞くことがなく、ドングリ、栗の実、キノコが不作でした。可憐な花の後、あの可憐さが愚べないほどに巨大化する水芭蕉の葉が例年より早く姿を消しました。なんとはなしに森の佇まいが変化しているようにおもえてなりません。ギンリョウソウ、シャクジョウソウにも例年よりお目にかかることが少なかつたように思います。森を流れる小さな右精進川が変化を反映しているのではないか。そんな思いで調査結果の集計をしています。

2019年6月14日が初めての水質調査です。調査地点、調査項目、調査班メンバーそれぞれに変化がありました。現在の上流、キャリコ橋、最下流の3地点調査の形が整ったのは2021年ころからです。そこで2021年から2025年の5年間のデータをまとめて、比較することも試みています。一例として、この5年間で観察された水生生物について下記に示します。

これから用語などの説明を少しだけします。森ボラ水質調査では水生生物を探取し、環境省「水生生物による水質調査評価法マニュアル—日本版平均スコア法」により水環境の評価を行っています。このマニュアルの中にスコア表があり、18目71科にスコアが与えられています。採取した水生生物のうちスコアを持つ科について出現科と称しています。くるくるとまたれた枯葉の筒中にいるトビケラ目ムラサキトビケラを見つけたときは心が躍ります。が、彼にはスコアが与えられていません。上のグラフから、澄川の小さな川にスコアを持つ31科の水生生物が存在していることがわかります。生物の分類は界—門—綱—目—科—属—種でした。スコア法では科までの同定を求めています。



地点0は最下流、地点2はキャリコ橋、地点4は上流の観察地点を表しています。

このグラフで、モンカゲロウ科といつてるのはモンカゲロウ科の幼虫で川の中で生活しています。成虫とは全く異なる形態をしています。3本の細い針のような尾をヒラヒラ揺らすカゲロウの幼虫、ご覧になりたくはありませんか。ここ数年、カゲロウ目の数が少なくなっているようにも思えます。年毎の出現数の変化もグラフ化したいと考えています。

水生生物の他にpH やパックテストなど物理化学的調査を実施しています。

データの集計はまだ半ばの状態です。調査結果報告は別の機会に致します。

水質調査や水生生物に興味のある方はいつでもお声掛けください。

今年の特記事項としては二ホンザリガニ調査をしたことがあります。親子森林教室(森しり隊)と共同作業ということで、実は、水質調査班班長として2つの懸念を持っていました。

1. 沢を下っての調査になるので子供たちにとって危険ではないか
2. ザリガニの生存場所を荒らすことにはならないか

無事、北海道大学田中先生と㈱建設環境研究所の3名とのご指導の下、2か所の沢で11匹のザリガニ確認ができたことは嬉しいことです。全長で4cm足らずの小さなザリガニたちでした。本来ザリガニとは今でいう二ホンザリガニを指していました。外来種のアメリカザリガニやウチダザリガニと区別するために二ホンザリガニというようになったのだそうです。ザリガニが生息する豊かな澄川の森を大切にしたいとの思いを新たにしたことでした。昔の子供たちはザリガニなどどこにでも見られ手に取って遊ぶこともしたでしょう。今は見ることも稀有であり貴重な経験です。絶滅が危惧される生き物と、そしてどんな生き物ともどのように向かい合うかと体験を通して考える機会にしたいものです。

水質調査班で、集計結果をもとにデータ検討会をしたいと考えています。調査から見えてくるもの、調査結果と調査を体験しての実感との整合性あるいは違和感、次回からの水質調査に加えるべきものあるいは不要なもの。興味を持ち考えるそしてワクワクする水質調査班でありたい。ほーほーホタル来い！2026年さらに多くのホタルが乱舞し、ザリガニが心地よく生息する澄川の森を楽しみ、守りたいと思います。(文・本郷)



■ 寄稿文

◆三陸の森を歩いて出会った木々

昨年、八戸に転居して1年が過ぎました。八戸は降雪が少なく、夏の暑さも東京のような耐え難さは無く、過ごし易い所だと言えます。しかし、山は遠く、かつ森ボラの様な門戸が広く活発な森林ボランティア団体はどうも見当たりません。そんな定まらない生活スタイルで時間と体を持て余す中で、私は“歩く”ことにとりあえずの遣り甲斐を見つけました。「みちのく潮風トレイル」という青森県の八戸から福島県の相馬までの1,000kmに及ぶ歩くコースを環境省が設定しています。三陸リアス式海岸に沿って入り組んだ海岸、波を碎く断崖、黒松やブナの森、そこに散在する集落、そんな中に敷かれた一本の道をひたすら歩くのです。三陸の海はエメラルドグリーンで普段は穏やかで美しく、海を見ているだけで心が休まります。時には急坂を下りては上り返し、時には東日本大震災以降造られた巨大な防潮堤の上を歩く。新緑のブナ林を歩いた時などは思わず大きく息を吸い込んだものです。トレイル沿いでよく見かける木は針葉樹の黒松、杉です。黒松は北限が下北半島とされ札幌では馴染みのない木ですが、潮風に強く海岸の荒れ地にいち早く根付く先駆樹と聞きます。杉林は薄暗くじめじめしているのとは対照的に、黒松林は見通しが良く比較的明るい感じがします。落ちた松葉は足元を柔らかくして歩き易い道を造ってくれます。以前森ボラで行った名取市の震災復興現場で、黒松の苗を育てて松原を再生する取組を



黒松林の道

観ましたが、今回のトレイルではその成長した姿に出会えるのではないかと楽しみにしています。

海沿いの森は圧倒的に松や杉などの針葉樹が多いのですが、所々でナラ類やブナなどの広葉樹林に出会います。そんな時はホッとなります。やはり広葉樹林は気持ちが良いです。明るいし、空気が澄んでいる感じがします。しかし、トレイルで出会う広葉樹林はそれ程樹種が多くなく、かつ手入れがされておらず、澄川の森の方が豊かな森だと感じを強くします。多分、それは森ボラの活動の成果だと思うのですが、酒井さんが言う「見渡して 10 種類以上の樹種が確認できれば、その森は豊かな森と言える。」を思い出します。



ど根性ポプラ

大船渡市越喜来に、巨大防潮堤をバックにドン！と構えて立っている 1 本のポプラの木があります。東日本大震災以前は、この周りには旅館やお店などが立ち並んでいたそうですが津波でそれらは一気になくなり、しかし、このポプラの木は幾度となく押し寄せる津波に耐え抜き悠然と立ち続けていたそうです。それから、誰からともなく「ど根性ポプラ」と呼ばれるようになったそうです。これから行く陸前高田市にも有名な「奇跡の一本松」がありますが、こちらはそのポプラ版でしょうか。

トレイルの話からは外れますが、八戸に来て出会った珍しい木を紹介します。皆さんは枝垂桜や枝垂柳は見たことはあると思いますが、「枝垂カツラ」はいかがでしょうか。私はこの春、八戸から近い十和田市で初めてお目にかかりました。同市にある新渡戸記念館にそれはあり、ハート形の葉っぱが見事に地面近くまで垂れ下がっていました。突然変異から生まれたものとのことです。でも、やはり、カツラは野幌森林公園にあるように雄々しく天に向かって枝を広げて欲しいものだと感じました。

トレイルを歩くのは未だ道半ばですが、来春はまた続きを歩き始めようと思っています。どんな木々に会えるか楽しみです。（文：八戸在住・清澤通俊）

◆COP30 でアグロフォレストリーが話題に

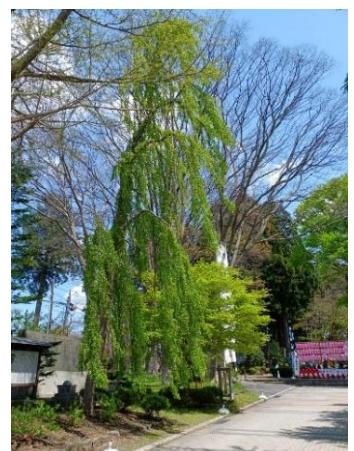
1997 年 COP3 が日本で開かれ「京都議定書」が締結され環境や森林の価値が注目されました。2001 年森ボラができたのも広い意味でその影響があったと思います。今年は地球の肺と言われる密林アマゾンのブラジルで COP30 が開催されましたがアメリカの不参加もありあまり注目されませんでした。その中でアグロフォレストリー（農業林業）が話題になったとのことです。先住民が森の中に低木のコーヒーやアボカドなどを樹下栽培し森を伐らずに生活の糧を得るシステムです。先進国のお金で途上国の先住民の暮らしのがが良くなることが期待されます。NHK の写真を添付します。

●話は別ですが北欧スエーデンでは昨年から他人の森林にブルベリーなどの灌木を植えて収穫できるような新しい森林法ができたそうです。

●一方森ボラは木を育てる活動をしながらキノコ栽培をしたり山菜をとったり子供たちとコクワやイタヤカエデの樹液など楽しんでいます。生活の糧ではありませんが恩恵を受けています。国によって森林を切らないで利用様々です。（投稿：酒井）



ブナ林の道



枝垂カツラ



アグロフォレストリーは自然の森を再現する農法です
ですから全ての植物が調和し 病気になりません

■今月の幹事会

出席者(12/10):老田、大窪、荻田、葛西、樅棒、加藤、平、西野(澄)、早坂、松藤、丸尾、矢野

1. 2026年1月、2月活動スケジュール(1月幹事会1/14(水)):了承
2. 2025年度11月会計報告:了承
3. 2025年度11月多面活動報告:消耗品は締め切り。人件費は1月中旬まで。了承
4. 2026年度活動計画:主な活動、年間活動計画(案)を提示。1月幹事会までに意見を!
5. 2026年度の親子森林教室:年に8回開催。10組の親子を募集。10月の植樹祭は野幌道有林にて。
6. 現場報告
 - ・整理伐状況:整理伐箇所をA2区に移動している。了承
7. その他
 - ・森ボラホームページ進捗報告:11月の訪問数1,819件。了承
 - ・木育広場inチカラ2025:12月13,14日開催。主催は北海道森林管理署・北海道森と緑の会。
 - ・研修旅行収支内訳:了承
 - ・クリスマスツリー提供:課題が多く、早期の実現は困難。石狩森林管理署と相談必要。
 - ・会員例会予定:1月平さん「キノコ、コクワなど」、2月西野澄子さん「樹名板ほか」、3月松藤さん「2026年度の活動計画など」
 - ・忘年会のお知らせ:了承

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
11月17日(月)	澄川	14	A3 整理伐、苗畠整備(防獣網撤去、苗伏せ養生) (株)じょうてつ記念樹防獣網取替
11月20日(木)	澄川	14	A3 整理伐、マキ作り、じょうてつの森樹高調査
11月23日(日)	澄川	14	各小屋の棚卸、体験者林内案内、マキ作り
11月26日(水)	澄川	14	A3 整理伐、マキ作り、コクワ蔓剪定、 日本道路株CSR活動支援(A2区手ノコによる整理伐)
11月29日(土)	澄川	9	A2、A3 整理伐、マキ作り
	野幌道有林	4	85, 87小班防獣網下げる(雪害対策)
12月1日(月)	澄川	15	マキ作り、集材用ソリ作り
12月4日(木)	澄川	13	A3 作業道への集材
12月6日(土)	澄川	18	A2 整理伐
12月9日(火)	澄川	9	A2 掛り木処理、マキ作り
12月10日(水)	ラルズビル地下1階	12	幹事会
12月12日(金)	澄川	12	マキ作り
12月14日(日)	澄川	12	マキ作り